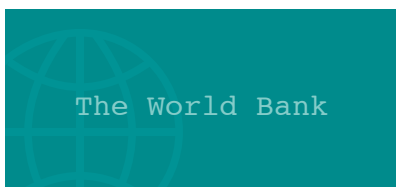


# 世界銀行債券ファンド

(毎月分配型)

愛称: ワールドサポーター

追加型投信 / 海外 / 債券



The World Bank



©World Bank



Bond



©Scott Wallace/World Bank



“World Supporter”



©Curt Carnemark/World Bank



Fund

- 本書は金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みいただき、ご自身でご判断ください。
- ファンドに関する金融商品取引法第15条第3項に規定する目論見書(以下「請求目論見書」といいます。)は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。また、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、請求目論見書をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。
- 本書には約款の主な内容が含まれていますが、約款の全文は請求目論見書に掲載しています。
- ファンドの基準価額、販売会社などについては、以下の委託会社の照会先にお問い合わせください。

<委託会社> [ファンドの運用の指図を行なう者]

日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除きます。)

<受託会社> [ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

野村信託銀行株式会社

設定・運用は

日興アセットマネジメント

- ファンドの内容に関して重大な変更を行なう場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき事前に投資者(受益者)の意向を確認いたします。
- ファンドの財産は、信託法(平成18年法律第108号)に基づき受託会社において分別管理されています。
- この目論見書により行なう「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)」の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2011年7月12日に関東財務局長に提出しており、2011年7月13日にその効力が発生しております。

商品分類			属性区分				
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
追加型	海外	債券	その他資産 (投資信託証券 (債券 公債 高格付))	年12回 (毎月)	グローバル (除く日本)	ファンド・オブ・ファンズ	なし

商品分類および属性区分の定義については、社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)をご参照ください。

#### <委託会社の情報>

委託会社名	日興アセットマネジメント株式会社
設立年月日	1959年12月1日
資本金	173億6,304万円
運用する投資信託財産の 合計純資産総額	6兆6,993億円 (2011年11月末現在)

## ファンドの目的

主として世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

## ファンドの特色

### 世界初<sup>\*</sup>、世界銀行との協同開発ファンド

※日興アセットマネジメント調べ

**特色 1** 相対的に利回りの高い、新興国通貨建て世界銀行債券に投資します。

**特色 2** 信用力の高い世界銀行が発行する短期債券を中心に組入れます。

**特色 3** 毎月の安定分配をめざしながら、新興国を応援します。

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

●市況動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。

## 世界銀行とは

- 世界の主要各国から出資・支援されている国際機関です。
- 第二次大戦後の経済復興を目的に設立された機関の一つです。
- 国際開発金融機関として、特定の地域に偏ることなく、グローバルな活動を展開しています。

### [世界銀行と日本]

■第二次大戦後の復興期において、日本は世界銀行からの資金を基礎として著しい復興と躍進を遂げました。日本が世界銀行から借入れた総額はおよそ8億6,300万米ドル(計31件)にのぼります。現在では、日本は世界銀行にとって第2位の資金供与国となり、様々な分野で重要なパートナーとなっています。

#### <日本に対する世界銀行の主な融資事例>

- 最初の貸出(1953年) 発電設備(関西、九州、中部電力)
  - 名神高速道路(1960年貸出)
  - 東海道新幹線(1961年貸出)
  - 最後の貸出(1966年) 東名高速道路(東京～静岡間)
- 1990年に日本は世界銀行からの借入を完済しました。



© World Bank

- 世界銀行は必ずしも当ファンドの投資対象国に融資するとは限りません。
- 世界銀行は当ファンド(投資対象とする投資信託証券を含みます。)の運用について責任を負うものではありません。

特色 1

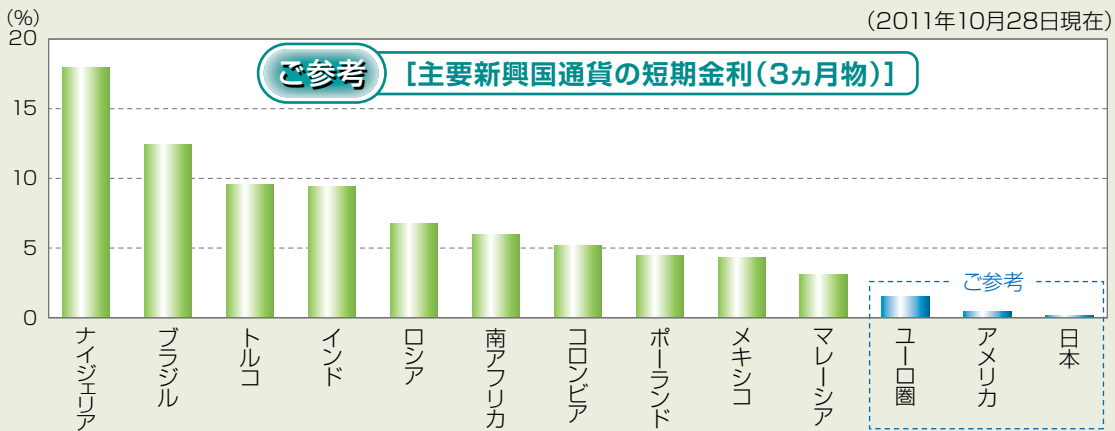
# 相対的に利回りの高い、新興国通貨建て世界銀行債券に投資します。

## 新興国通貨建ての債券に投資することで、相対的な高金利の獲得をめざします。

※一部の通貨において直接新興国通貨建ての債券に投資できない場合などは、利子や元本の支払いが新興国通貨に応じて変動する仕組みを持つ米ドル建ての債券などに投資することがあります。また、流動性確保のため、一部を米ドルなどの通貨建て債券に投資します。

\*なお、市況動向などにより、世界銀行債券の組入比率が一時的に大きく低下する場合があります。

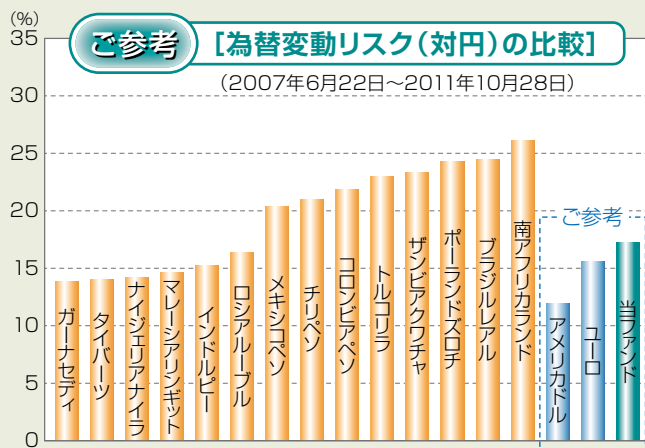
### ■ 新興国通貨の中には、相対的に高い金利水準にあるものが数多く存在しています。



●信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。

- 上記は主要新興国の金利水準を示したものであり、上記の国の通貨建て債券を組入れることを約束するものでも、推奨するものでもありません。また、実際の組入債券の金利水準とは異なります。
- 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

## 複数の新興国通貨へ分散投資を行なうことにより、リスクの低減効果をめざします。



- 左記の国の通貨建て債券を組入れることを約束するものでも、推奨するものでもありません。
- 左記は過去のものであり、将来の運用成果、リスク水準等を約束するものではありません。
- グラフ中の当ファンドのリスクは、基準価額の週次リターン標準偏差を年率換算したものです。
- 基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の分配金込基準価額の値です。分配金込基準価額とは、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。
- グラフ中の当ファンドのリスクは、通貨の動き、債券の金利収入・価格変動の影響を受けますので、為替変動リスク以外のリスク(金利変動リスク、信用リスクなど)も含まれます。
- 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。

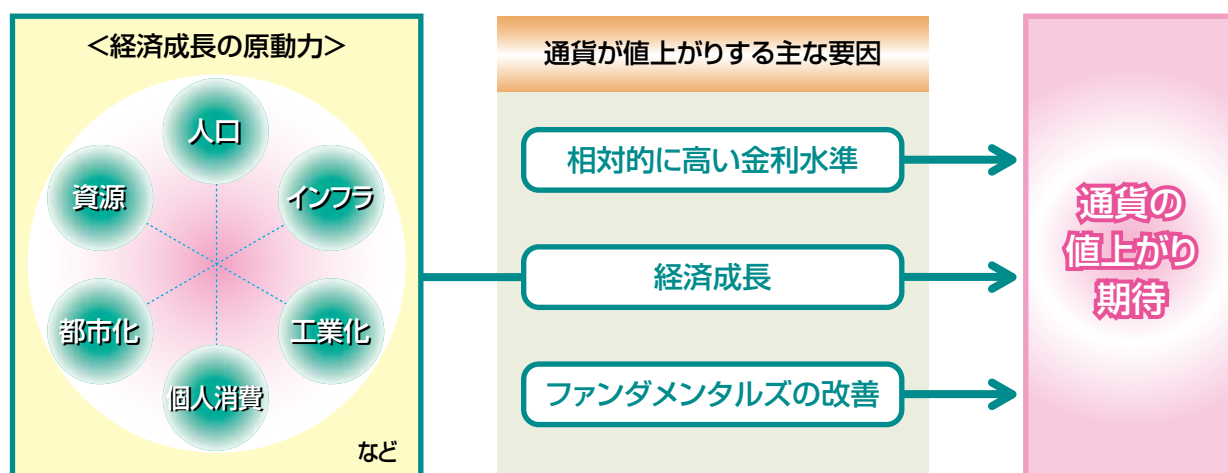
新興国の単一通貨の値動きは相対的に大きくなる傾向があり、通貨危機や経済危機などにおいては、相対的に大きく下落する可能性もあります。また、分散投資を行なった場合でも投資元本を割り込むことがあります。

※リスクの詳細については、「投資リスク」をご覧ください。

## 複数の新興国通貨へ投資を行ないながら、 長期的な通貨の値上がりが期待できます。

- 経済成長に伴うファンダメンタルズの改善や魅力的な金利水準などにより、その国への投資魅力が高まれば、海外からの資金流入の活発化に伴って通貨が買われやすくなり、通貨の値上がりが期待されます。

### ご参考 通貨の値上がりイメージ

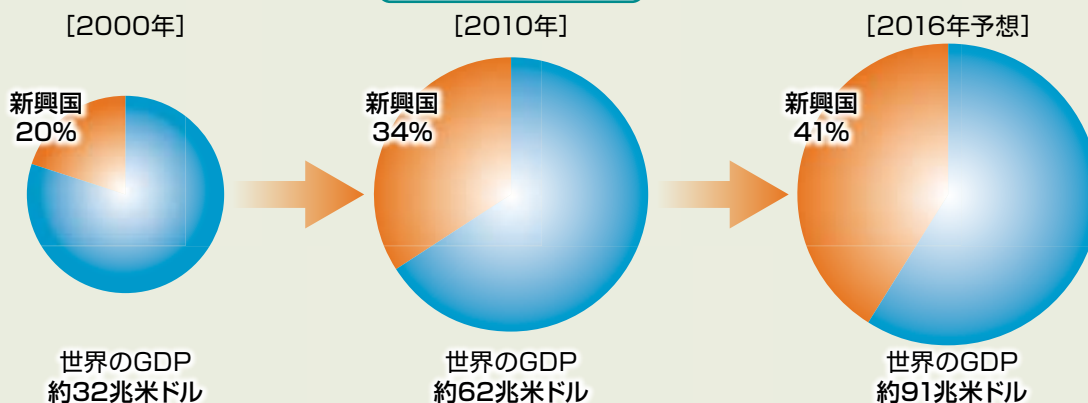


※ 上記は、通貨が値上がりする主な要因をご紹介しますが、上記要因が必ずしも通貨上昇に結びつくとは限りません。また、上記は全ての要因を網羅したものではありません。上記はイメージです。

### ご参考

人口の多さや資源を強みとする新興国は、金利水準が相対的に高いだけでなく、世界経済のけん引役として、今後も経済成長が期待されるため、長期的な通貨の値上がりが期待できます。

### 世界のGDP推移



● IMF「World Economic Outlook, September 2011」の定義およびデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。

● 上記グラフは過去のものおよび予想値であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

特色 2

# 信用力の高い世界銀行が 発行する短期債券\*1を中心に組み入れます。

\*1 投資する債券の残存期間は原則3年以内とします。(変動利付債券の場合は10年以内)

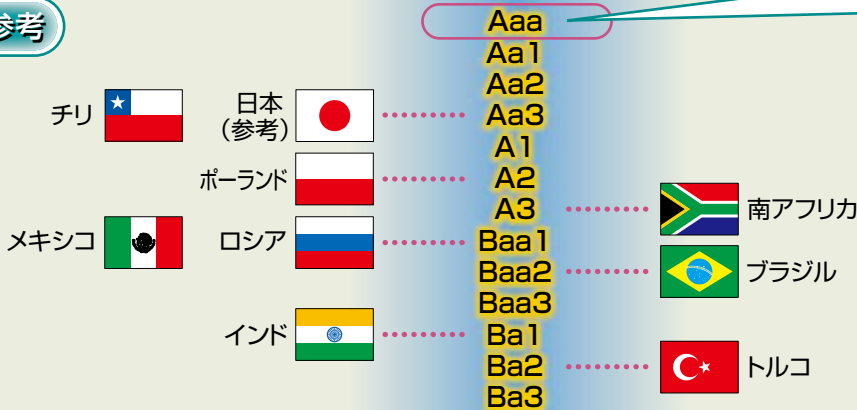
## 信用力の高い世界銀行債券に投資します。

- 世界銀行債券は、強固な資本構造、堅実な財務方針などにより AAA(S&P社)/Aaa(Moody's社)の高い格付を保有しています。
- 世界銀行債券に投資することで、高金利を享受しながら信用リスクを抑制した運用成果が期待できます。



THE WORLD BANK  
世界銀行

ご参考



格付とは、債券の元利金の支払い能力などの信用力を総合的に分析してランク付けし、アルファベットなどのわかりやすい記号で示したものです。

※上記格付は2011年10月末の自国通貨建長期債務(世界銀行は発行体)に対して付与されたものです。(Moody's社の格付を記載。)  
※上記の国の通貨建て債券を組み入れることを約束するものでも、推奨するものでもありません。



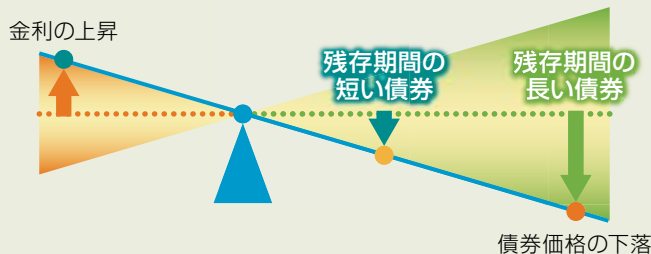
世界銀行の貸付には「優先弁済権」がついており、他の債権者に優先して返済されることが通例となっています。世界銀行の格付が高いのはこうした背景があるからです。

## 短期債券を中心に投資することで、価格変動リスクの低減が期待できます。

- 債券には金利変動により債券価格が変動するリスクがあります。
- 短期債券を中心に投資することで、金利変動に伴う価格変動を低く抑えることが期待できます。

※投資する債券の残存期間は原則3年以内とします。(変動利付債券の場合は10年以内)

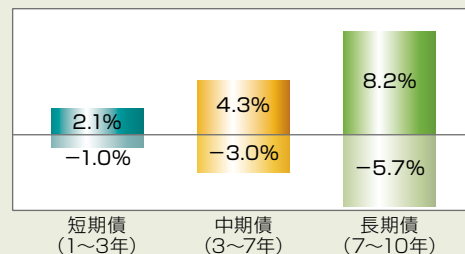
ご参考 金利上昇した場合における債券の値動きのイメージ



一般に金利が上昇すると、債券の価格は下落します。残存期間の短い債券は、残存期間の長い債券に比べ、金利上昇時の価格変動が相対的に小さくなる傾向があります。

● 上記はイメージ図です。また、価格変動等に関する説明は一般論であり、実際はこれと異なる動きをする場合があります。

ご参考 残存期間別最大・最小リターン(1ヵ月当たり)



期間:1986年12月末~2011年10月末

※シティグループ米国国債インデックス(米ドルベース)の1~3年、3~7年、7~10年を用いて、月次変化率の最大値と最小値を計算しています。

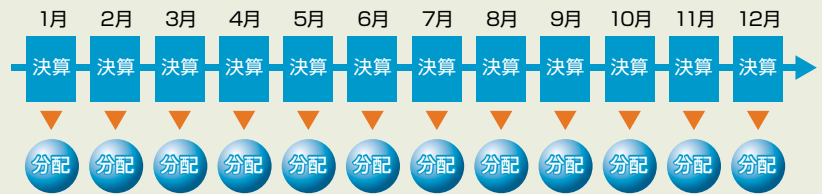
● 上記のグラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

### 特色 3

## 毎月の安定分配をめざしながら、新興国を応援します。

主に組入債券の利子収入や値上がり益などを原資として、毎月の決算時に安定した収益分配を行なうことをめざします。

■ 毎月12日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。



- 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や、分配を行わない場合もあります。
- 上図はイメージであり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

## 高い収益を期待するとともに、SRI(社会的責任投資)\*<sup>2</sup>にご参加いただけます。

■ 世界銀行は、新興国が安定かつ公正で持続可能な成長を実現できるよう支援しています。貧困層の生活水準向上、社会基盤整備、環境保護、紛争国の復興援助などに主眼をおいています。

\*2 一般にSRI(Socially Responsible Investment)とは、資産運用における投資基準として、経済面だけでなく、社会面・倫理面にも着目して、投資対象の選定を行なう投資手法を指します。

## 寄付についてのご報告

当ファンドの設定来、ご負担いただいた信託報酬の中から日々の純資産総額に年率0.05%(有価証券届出書提出日現在)の率を乗じて得た金額を、国際連合関連の組織である国際開発協会(International Development Association、通称IDA)に寄付しています。

IDAは主に世界銀行(IBRD)の条件で借入れを行なうことが出来ない世界で最も貧しい国々を対象としており、貧困削減に向けて、途上国における経済成長促進、不平等是正、生活水準向上のためのプロジェクトに長期で無利子の融資や贈与を行なっています。これらの融資や贈与は、初等教育、基本的保健サービス、上下水道、環境セーフガード、ビジネス環境改善、インフラ、制度改革など、途上国の経済成長や生活水準改善への道を開くことに欠かせないプロジェクトに使われています。



© Pierre-Joseph Kamano/World Bank Group



© Curt Carnemark/World Bank



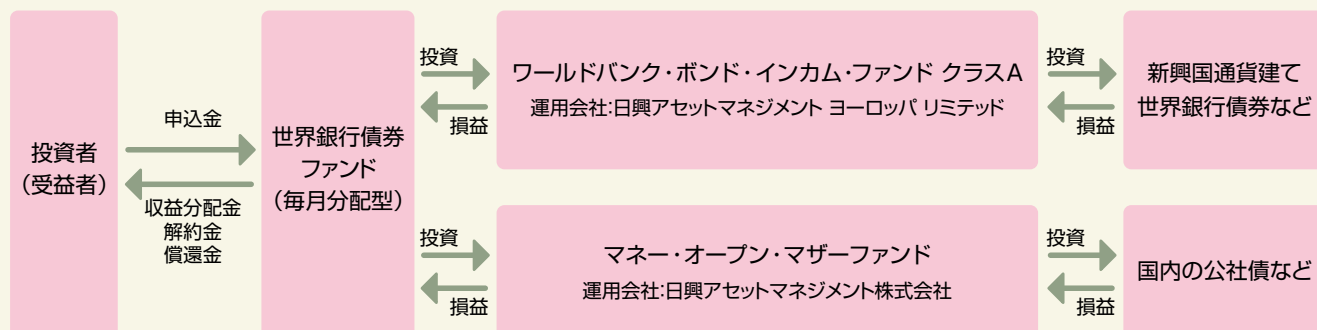
© ALFREDO SRUR/The World Bank

※当ファンドにおける寄付先や寄付金額などは運用報告書にて開示します。

※寄付の金額などは、将来変更になる場合があります。

## ファンドの仕組み

■当ファンドは、投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。



### (主な投資制限)

- ・投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。
- ・外貨建資産への直接投資は行ないません。

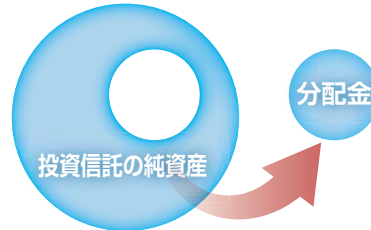
### (分配方針)

- ・毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準などを勘案して決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。
- ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

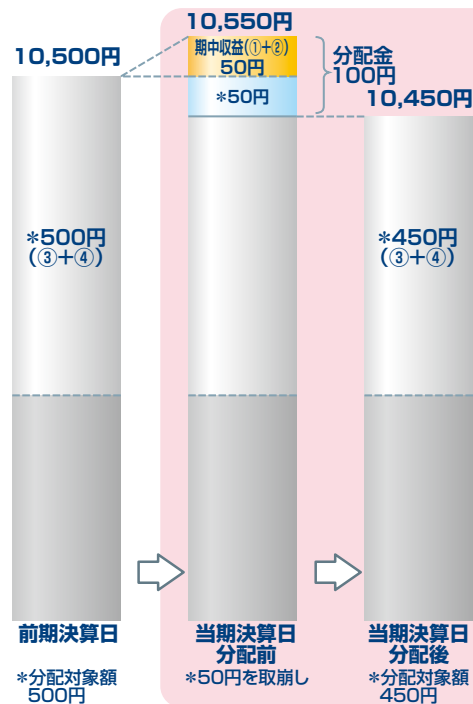
### 投資信託で分配金が支払われるイメージ



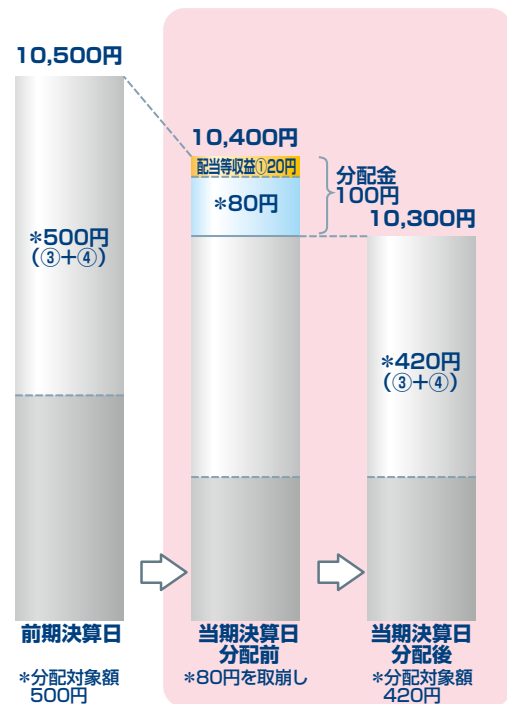
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算から基準価額が上昇した場合



#### 前期決算から基準価額が下落した場合

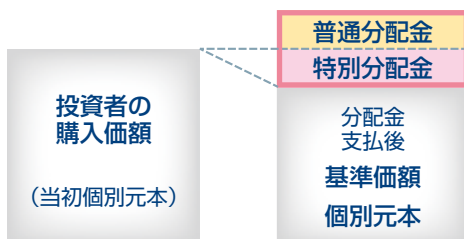


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

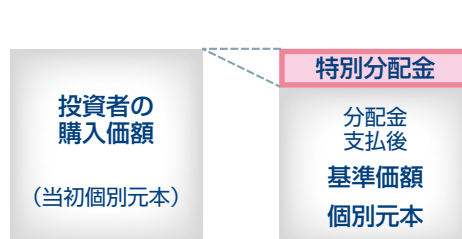
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※ 特別分配金は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、特別分配金部分は非課税扱いとなります。

普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
 特別分配金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、特別分配金の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後述の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

# 投資リスク

当ファンドの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴いません。基準価額変動リスクの大きいファンドですので、お申込みの際は、当ファンドのリスクを十分に認識・検討し、慎重に投資のご判断を行なっていただく必要があります。

## 基準価額の変動要因

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

### 為替変動リスク

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 新興国通貨建ての債券は、新興国の通貨の為替変動に影響を受けます。新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

### カントリー・リスク

- 投資対象となる債券は新興国通貨建てで起債されたものであるため、新興国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

### 価格変動リスク

- 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

### 流動性リスク

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

### 信用リスク

- 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

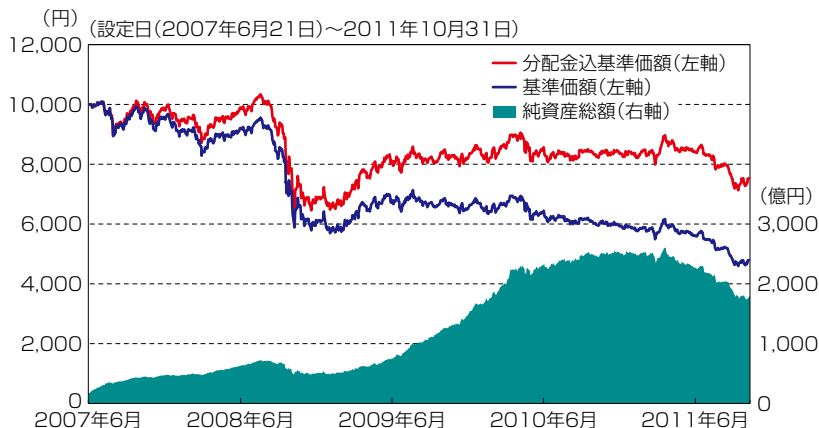
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

## リスクの管理体制

- リスク・パフォーマンスの評価・分析とリスク管理および法令などの遵守状況のモニタリングについては、運用部門から独立したリスク管理/コンプライアンス業務担当部門が担当しています。
- 上記部門はリスク管理/コンプライアンス関連の委員会へ報告/提案を行なうと共に、必要に応じて運用部門に改善案策定の指示などを行ない、適切な運用体制を維持できるように努めています。

※上記体制は2011年11月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

基準価額・純資産の推移



基準価額.....4,791円  
純資産総額..... 1,788.32億円

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。  
※分配金込基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであることに留意ください。

分配の推移(税引前、1万口当たり)

2011年6月	2011年7月	2011年8月	2011年9月	2011年10月	直近1年間累計	設定来累計
60円	60円	60円	60円	60円	720円	3,060円

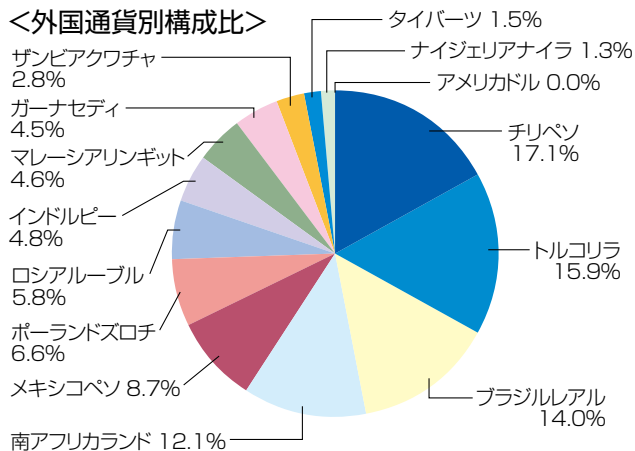
主要な資産の状況

<資産構成比率>

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA	99.5%
マネー・オープン・マザー・ファンド	0.1%
現金その他	0.4%

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスAのポートフォリオの内容

<外国通貨別構成比>



※構成比率は当外国投資信託の純資産総額比です。  
※比率はその他があるため100%とならない場合があります。

<格付別構成比>

Aaa	99.7%
Aa	0.0%
A	0.0%
Baa以下	0.0%
平均格付	Aaa

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。  
※格付はMoody's、S&Pのうち、高い格付を採用しています。  
※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。

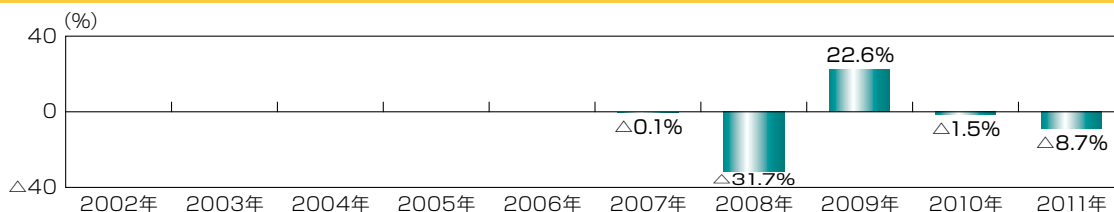
<公社債別構成比>

世界銀行債券	99.7%
ソブリン債他	0.0%

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。  
※ソブリン債は国債、政府機関債、政府保証債、国際機関債などです。

※上記は、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドより提供された情報です。

年間収益率の推移



※ファンドの年間収益率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。  
※当ファンドには、ベンチマークはありません。  
※2007年は、設定時から2007年末までの騰落率です。  
※2011年は、2011年10月末までの騰落率です。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。  
※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示しています。

## お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金単位	1口単位 ※販売会社によって異なる場合があります。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。
購入の申込期間	2011年7月13日から2012年7月12日までとします。 ※上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日
換金制限	ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	委託会社は、投資対象とする投資信託証券への投資ができない場合、投資対象とする投資信託証券からの換金ができない場合、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入および換金の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた購入および換金の申込みの受付を取り消すことができます。
信託期間	無期限(2007年6月21日設定)
繰上償還	次のいずれかの場合等には、繰上償還することがあります。 ・ファンドの純資産総額が10億円を下回ることとなった場合 ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎月12日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年12回、分配方針に基づいて分配を行ないます。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。
信託金の限度額	5,000億円
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	年2回(4月、10月)および償還後に運用報告書は作成され、知れている受益者に対して交付されます。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ・配当控除の適用はありません。 ・益金不算入制度は適用されません。

## ファンドの費用・税金

### ファンドの費用

#### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	<b>購入時の基準価額に対し3.15%(税抜3%)以内</b> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	<b>ありません。</b>

#### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	当ファンド	<p>ファンドの日々の純資産総額に対し年率0.945%(税抜0.9%) 運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。</p> <p style="text-align: center;">&lt;運用管理費用の配分&gt;</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="4">運用管理費用(年率)</th> </tr> <tr> <th>合計</th> <th>委託会社</th> <th>販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.9450% (0.90%)</td> <td>0.2835% (0.27%)</td> <td>0.6300% (0.60%)</td> <td>0.0315% (0.03%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※括弧内は税抜です。</p>	運用管理費用(年率)				合計	委託会社	販売会社	受託会社	0.9450% (0.90%)	0.2835% (0.27%)	0.6300% (0.60%)	0.0315% (0.03%)
	運用管理費用(年率)													
	合計	委託会社	販売会社	受託会社										
0.9450% (0.90%)	0.2835% (0.27%)	0.6300% (0.60%)	0.0315% (0.03%)											
投資対象とする 投資信託証券	<p>純資産総額に対し年率0.323%程度 ※「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の純資産総額が200億円、 為替相場が1米ドル=120円の場合の概算値です。</p>													
実質的な負担	<p><b>純資産総額に対し年率1.268%(税抜1.223%)程度</b> ※投資対象とする投資信託証券の純資産総額や組入比率などにより変動します。</p>													
その他の 費用・手数料	諸費用 (目論見書の 作成費用など)	<p><b>ファンドの日々の純資産総額に対し年率0.1%以内</b> 目論見書の作成および交付に係る費用、運用報告書の作成および交付に係る費用、 監査費用などは委託会社が定めた時期に、信託財産から支払われます。</p>												
	売買委託 手数料など	<p>組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、 信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することは できません。</p>												

投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

### 税金

- ・税金は表に記載の時期に適用されます。
- ・以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時 期	項 目	税 金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して10%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して10%

※上記は、2011年7月12日現在のもので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。





A series of horizontal dashed lines for writing, spaced evenly down the page.

**nikko am**